

## 平土間仮設劇場の利用形態調査

森 幹 雄

(武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科)

## Survey of Utility Form in the Parquet Temporary Theater

Mikio Mori

*Department of Human Environmental Sciences  
School of Human Environmental Sciences,  
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan*

It is rare to present the play on the open stage in a public multipurpose hall. However, four theater types (the closure and opposed and sector and way line type) are splendidly used in Osaka modern theater festival 〈Temporary theater〉 WA. If human egress and ingress is free from anywhere, the space is flexible, and the allowance of the space exists in the circumference of the theater, the open stage is the space which wants challenge for the performer. It was proven that the performer had required the open stage which does not stop in fixed proscenium theater which is opposed type.

### 緒 言

劇場は、舞台と客席の空間が分離したプロセニウムステージと、同一の空間にあるオープンステージに大きく分類される。日本において、劇場の多くはプロセニウムステージであり、オープンステージの利用実態はほとんど報告されていない。筆者は公共多目的ホールの可変機構の利用状況を調査し、オープンステージの利用が低い事を明らかにした<sup>1)</sup>。ここでは、オープンステージである平土間仮設劇場の利用形態を調査報告する。

大阪市では、1998年秋から大阪演劇祭が、2003年4月から2006年3月には大阪現代演劇祭が開催された。この中で2005年4月に小劇場の為の〈仮設劇場〉がデザインコンペにより建設された。このコンペには、117件の応募があり、五十嵐淳の作品が選定され、大阪港の中央突堤2号上屋内に現代演劇祭仮設劇場が誕生した<sup>2)</sup>。また上演団体も公募され、80団体の応募から、12団体の上演が決定した。この12団体の公演が2005年4月～6月の3ヶ月間に大阪現代演劇祭〈仮設劇場〉

WAで連続上演された<sup>3)</sup>。これは筆者が観客として体験した12団体およびオープニング公演の劇場利用形態の調査報告である。仮設劇場は、約128m×33mの矩形平面、高さ約7.5m～10mの上屋の内部に作られた直径22m高さ3mの透明エアチューブの円形劇場で、基本の劇場配置図を(Fig. 1-1)に示す。

### 公演の概要

#### (1) オープニング公演ドラマリーディング「一劇場へ!!」(朗読劇)

4/8(金)～10(日) (Fig. 1-2)参照

「劇場へ・現代能楽集三人姉妹・カノン・れんみんたん倶楽部・人生の劇場・みんなと雨ふり」

円形劇場の中央部に客席を設定した。役者は様々な場所から出入りする。客は出入り自由で、中央円形内に座布団(黒マット)を置き自由に座る。主舞台は南側にある。観客を取り囲む演技スペースもあるが、その外の円形通路、内幕のカーテンも演技スペースになる。ドラマリーディング

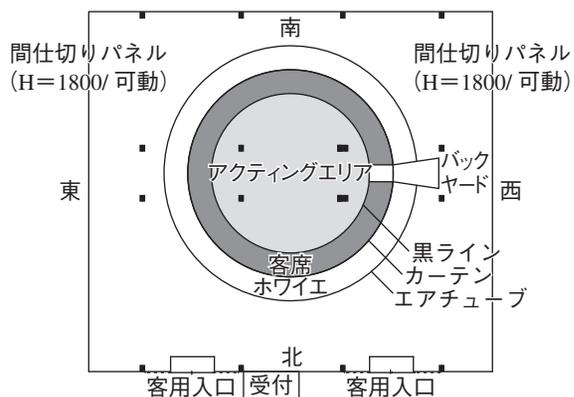


Fig. 1-1. Basic(Theater Site Plan)

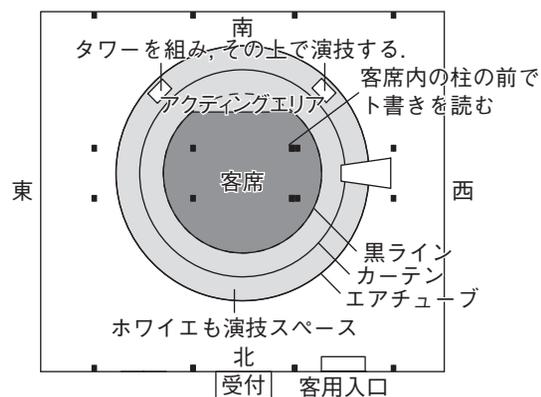


Fig. 1-2. 「-劇場へ!!!」

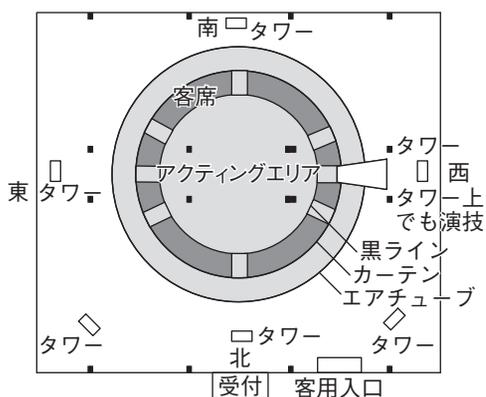


Fig. 1-3. 「←→」

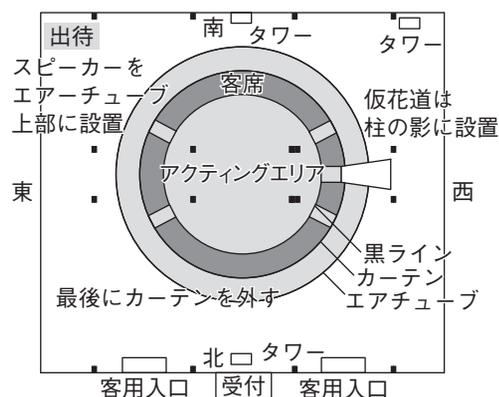


Fig. 1-4. 「美脚ルノアール」

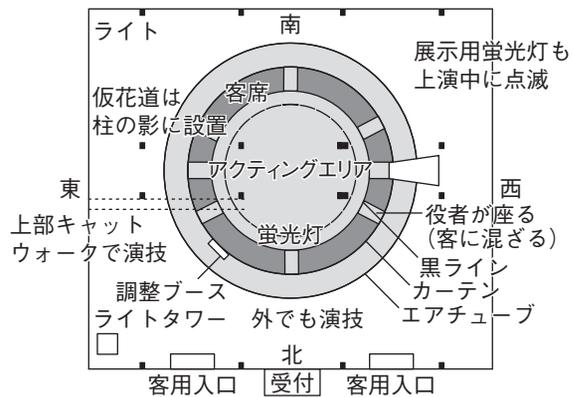


Fig. 1-5. 「アテルイ」

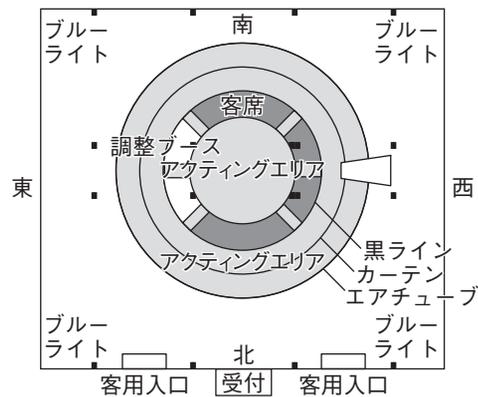


Fig. 1-6. 「空の余白」

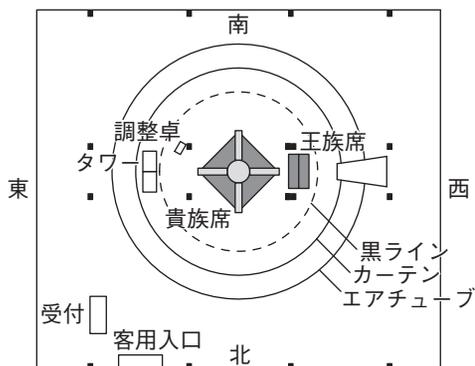


Fig. 1-7. 「体感型★ロミオとジュリエット」



凡例

- アクティングエリア
- 客席
- 柱

で、本を読む役者と、本を見せる黒子も存在した。

(2) 劇団：WIRE 題：「⇔」cross2

4/15(金)～17(日) (Fig. 1-3)参照

「360度全方位包囲型演劇 劇場が回る目が回る 全てはあなたの目の前で起きたこと」

円形劇場の外周に沿って客席を設定した。観客入場時は係員が座席に誘導する。観客は出入り自由である。演出で倉庫の出入り口4箇所を同時に開閉した(音と光の演出)。円形劇場外(上屋内)からBlue Light(床)及びライトタワー(6箇所)の照明がある。円形劇場通路のシルエットとさらに外のシルエットを利用している。

(3) 劇団：ニットキャップシアター 題：「美脚ルノアール」

4/22(金)～24(日) (Fig. 1-4)参照

円形劇場の外周に沿って客席を設定した(平台の役者の通路がある)。観客入場時は係員が座席に誘導する。四本の柱の下部ベニヤで囲う(たたいて音を出す)。役者の出待部分は黒ベニヤで囲ってあった。役者の向きにより声が聞こえにくい。通路の平台は役者の出入りの予告している。カーテンが一部(3箇所)で外れた。目の前で演技が展開された。舞台周辺を回り、仮設劇場だけでなく、倉庫全体を使った演出をしていた。

(4) 劇団名：エレベーター企画 題：「アテルイ」

4/28(木)～30(土) (Fig. 1-5)参照

円形劇場の外周に沿って客席を設定した(役者通路はラインで示す)。観客入場時は係員が座席に誘導する。役者通路の出入り部分に役者が座る(観客席の中に溶け込む)。上屋全体を使った演出やアクティンギア外側の利用がある。照明・音響の操作卓は回廊(ホワイエ)に設置した。演出のし易さ及び、客席からは目立たないような配慮がある。倉庫の広い天井を活用し、上部のキャットウォークも使った立体的な舞台構成をしていた。中央アクティンギア外周部とホワイエ(回廊)で連動して演技者が移動し、演技空間に囲まれた観客席・劇空間を造っていた。

(5) 劇団名：PORT+PORTAIL 題：「空の余白」

5/3(火)、4(水) (Fig. 1-6)参照

演劇とダンスによる舞台である。円形劇場の外周は演技空間で、その内側に客席を設定し(役者の通路はラインで示す)、中央部は演技空間になる。演技空間のなかに挟まれて、客席がある。ホワイエ(回廊)も、客席外周部も演技空間として強

く意識している。観客入場時は係員が座席に誘導する。照明と音響の操作卓を客席の一部に設置した。スピーカーも客席内に持ち込む。映像が柱の影になり見難い。倉庫四隅のブルーライトがエアーチューブに反射し、青い光の列が出来る。

(6) 劇団：あなざーわーくす 題：「Vol・10 体感型ロミオとジュリエット」

5/6(金)～8(日) (Fig. 1-7)参照

演劇は元々ライブであったとの考え方に基づき観客と一緒に舞台を作り出す。劇場の中にブルーシートが4つに別けて敷いてあり、観客は好きなシートを選び座る(貴族席)。この席に座った貴族たちは演劇に参加しなければならない。このほかに王侯席があり、ここではずっと観客でいることが出来る。演劇が始まると、観客は席から中央の参加アクティンギアエリアに移動、小さな座布団を腰に装着し、演劇を盛り立てる。実際のアクティンギアエリアは中央の2mの円の中である。この仮設劇場に限らず、様々な場所での公演を設定している。暗転は観客が目を閉じ、明転は目をあける。観客の協力の下、一体となり、演劇そのものの楽しさを分かち合う。

(7) 劇団：WA 題：「hmp (cage)カフカ「流刑地にて」より」

5/13(金)～15(日) (Fig. 1-8)参照

入口より見て、右(バックヤード)を正面と設定、主舞台は中央部である。正面側上手に音響及び照明卓がある。花道上部に時計台と登るための梯子がある。客席が舞台を取り囲む形ではあるが、正面性も感じられる。スピーカーを舞台周りに囲むように配置し音の移動も意識している。最終段階でカーテンが取り外され、つるされていた仮面が観客席を取り囲む。透明なエアーチューブのみで劇場が取り囲まれた。

(8) 劇団：南船北馬一団 題：「シアン」

5/19(木)～22(日) (Fig. 1-9)参照

ガートルード・スタイン「姉妹ではない三人姉妹」より。パーツに別けられた客席があり、その残りは全て舞台である。客席の間から役者が出入りする。調整機器も客席内にある。仮設の段床式客席を作った。演技空間としての段床もある。青と白ランプで演出した。ホワイエ部分も演技空間として利用していた。

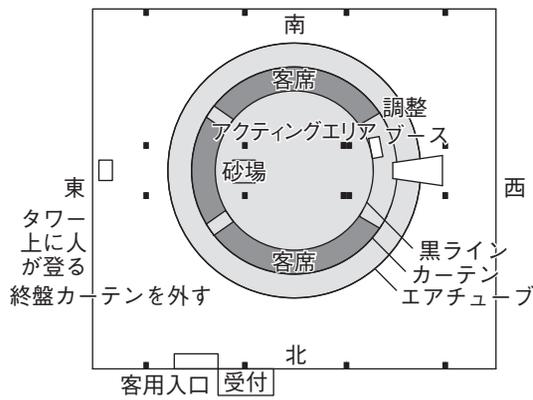


Fig. 1-8. 「cage」

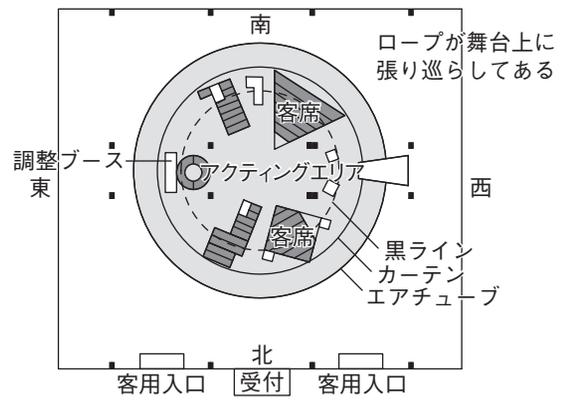


Fig. 1-9. 「シアン」

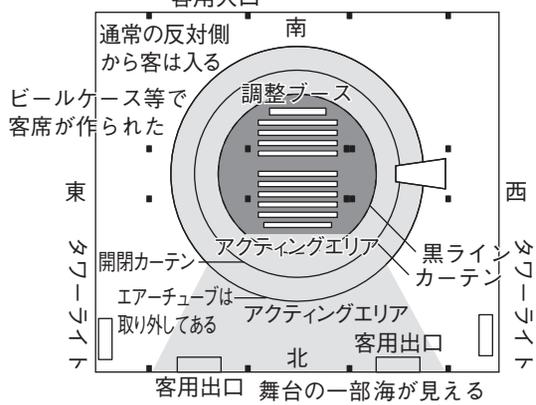


Fig. 1-10. 「海亀が微笑うよ」

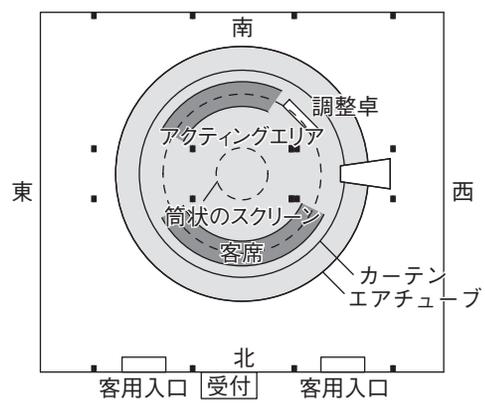


Fig. 1-11. 「グラマー氏のカンヅメ」

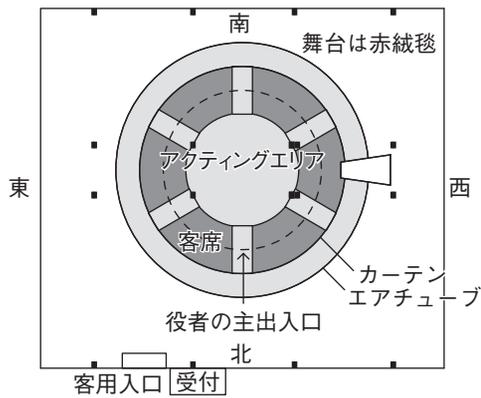


Fig. 1-12. 「スパイス・オックス～雄牛の復活～」

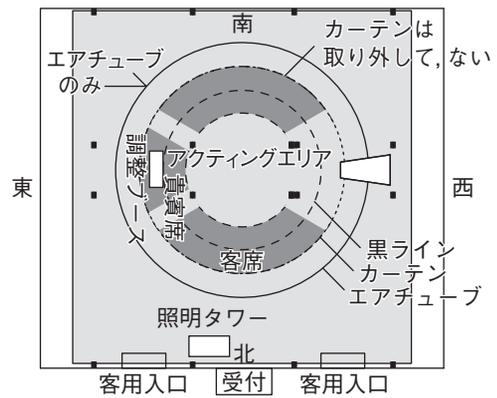


Fig. 1-13. 「GUYSⅢ」

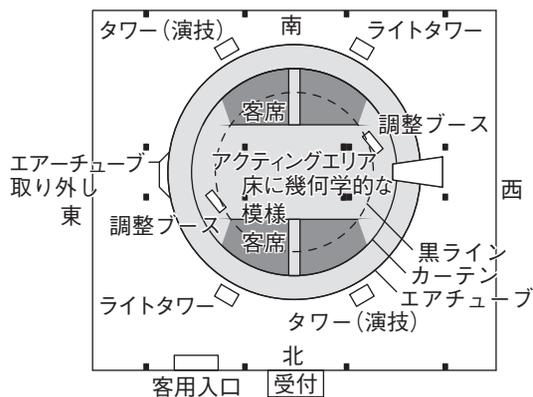


Fig. 1-14. 「JAPANESE IDIOT」



- 凡例
- アクティンクエリア
  - 客席
  - 柱

(9) 劇団：桃園会 題：「海亀が微笑うよ」

5/27(金)～29(日) (Fig. 1-10)参照

中央部の柱内側、客席最後部が調光調音スペース、円形劇場周辺部と北側が舞台である。観客は通常北側から入場したが、今回は南から入る。観客席の1、2列目は黒クッションのみ、3列目以降は様々な種類の酒類の通箱や平台・箱足を組み合わせている。北側スチールパイプ間1ユニットは、エアーチューブとカーテンを取り外してある。その両脇は4～5本のエアーチューブと開閉カーテンで舞台の大きさを調整した。北側倉庫の室内部分も一体の舞台空間として使用した。さらにスチールドアを開け大阪港も舞台となる。海が見えることを意識した。仮設劇場より大阪港に面した倉庫を改造した空間・場所を重要視している。

(10) 劇団：グラス・マーケット 題：「グラマー氏のカンヅメ」

5/31(火)～6/1(水) (Fig. 1-11)参照

中央部が舞台で東西より役者が出入りする。南西客席隅が調整スペースである。劇場が暗いが、ここはパソコンの光で明るい。客席は2列で、前部は床に黒マット座布団(通常客席設定位置より前)、後部はパイプ椅子である。中央部に円形スクリーンを吊り下げそこに3方向よりプロジェクターで映写演出をしていた。

(11) 劇団：カムカムミニキーナ 題：「スパイスオックス牡牛の復活」

6/3(金)～5(月) (Fig. 1-12)参照

柱の内側の中央部が舞台である。6方向の花道より役者が出入りする。調整スペースは舞台外にある。客席は3列で前部は床に黒マット座布団(2列)、後部はパイプ椅子(1列)である。狭い舞台の中で17人の役者が演技するのを目前で見るのは迫力がある。ホワイエ部分はカーテンを紗幕にして、役者が踊る。中心部の演技とそれに呼応する円周部の演技に囲まれ、舞台を見る。

(12) 劇団：DANCE BOX 題：「Guys III」

6/10(金)～12(日) (Fig. 1-13)参照

中央部が舞台で、通常より狭い。南北が客席で、東は特別席と調整卓がある。カーテンは全て取り外し、透明エアーチューブのみの状態である。役者は主に西の花道から出入りし、その他四方に伸びる花道からも出入りする。一時に多くの役者が登場する時はエアーチューブの適当な場所から入場する。狭い舞台に25人の役者がダンスするの

を目前で見る。中心部とそれに呼応する円周部の演技に囲まれ舞台を見る。円形劇場の外でバイクが走り回る。倉庫全体を演技空間と考えた。

(13) 劇団：劇団Φ太陽族 題：「JAPANEZE IDIOT」

6/16(木)～19(日) (Fig. 1-14)参照

中央部が帯状に舞台で南北が客席である。西に通常花道を、東にカーテンとエアーチューブを外して出入り口を設置した。その他南北に伸びる細い花道からも出入りする。南北の客席に向い演技をする。円形劇場の外にタワーを設置した(照明用・演技用)。移動式小道具・大道具有り。客席最前列は黒マット、2列目は平台+黒マット、3、4列目仮設台+黒マットで高さを調整した。エアーチューブの外も舞台と考えた。東西間仕切りパネルが境界、光がエアーチューブを通して見える。

## 考 察

大阪現代演劇祭に於ける〈仮設劇場〉の劇場形式をTable.1に整理した。清水裕之は芸能空間の基本形を次ぎの五つに分けている<sup>4)</sup>。

1. 包囲型(観客が演技者を包囲する形態)
2. 対向型(観客と演技者が向かい合っている形態)
3. 扇形型(観客が演技者を包囲しながら、向かい合っている形態)
4. 道行型(線的な運動が基本の芸能の空間形態)
5. 限定道行型(限られた線分上で行われる芸能の形態)

今回の仮設劇場の報告は限定された空間で行われているので、道行型と限定道行型は同類とし、

1 包囲型、2 対向、3 扇形型、4 道行型に分類した。形式1の包囲型が7例(54%)と構想通りの使われ方が多い。それに対し、プロセニウム劇場の典型である2の対向型は、2例(15%)に止まっている。その対向型も客席周りを演技空間で囲い、あらゆる方向でドラマが展開されている。3の扇形型、4の道行型共に2例(15%)でオープンシアターの特徴である様々な利用形態がされている。透明な仮設の円形劇場においては、1つの形式に縛られることなく、自由な発想で演技空間を創っていかうとする様子が見られる。

主演技エリア位置は対向型の2例を除き11例(84%)が中央部で、舞台を観客が囲んでいる。主演技エリアの形状は、円形劇場の形態を生かした

Table 1. The Theater Type of The Temporary Theater in Osaka Modern Theater Festival

劇団名	基本型	ド ラ マ リーディ ング	WTRE	ニ ッ ト キャッ プシ アター	エレベ ーター 企画	PORT + PORTAIL	あなざ わーく す	hmp	南船北馬 一団	桃園会	グ ラ ス マーケッ ツ	カムカム ミニキー ナ	DANCE BOX	劇団Φ 太陽族 音楽劇
演劇名		劇場へ	←→	美脚ル ノ アール	アテルイ	空の余白	体感型★ ロ ミオとジ ュ リエット	cage	シアン	海亀が微 笑うよ	グラマー 氏のカン ズメ	スパイス ・ オックス ・ 雄 牛の復活	GUYS III	JAPANESE IDIOT
劇場形式 (舞台と客席の関係)	1	2	1	1	1	3	1	1	1	2	4	1	3	4
	(包囲型)	対向型	包囲型	包囲型	包囲型	扇形型	包囲型	包囲型	包囲型	対向型	道行型	包囲型	扇形型	道行型
演技エリア位置	中央 端部	(中央) 南	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央線形
演技エリア形状	円形 台形 その他	(円形) 台形	円形	円形	円形	円形	円形	円形	円形		円形	円形	円形	四角形
演技エリア位置	客席周 ホワイエ 劇場外	(未定) ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
演技エリア形状	(未定)	ドーナツ形	ドーナツ形	ドーナツ形	ドーナツ形	ドーナツ形	-	ドーナツ形	ドーナツ形	ドーナツ形	ドーナツ形	ドーナツ形	ドーナツ形	ドーナツ形
客席位置	(外周)	中央	外周	外周	外周	中間周	中央	外周	分散	中央	外周	外周	外周南北	南北
客席形状	(ドーナツ状)	横列自由	ドーナツ 2列	ドーナツ 状	ドーナツ 2列	ドーナツ 2列	四方	ドーナツ 2列	仮設段床	四角後段床	ドーナツ 2列	ドーナツ 3列	扇形列	4列平行
客席材料	(黒マット)	黒マット	黒マット	黒マット	黒マット	黒マット	尻座布団	黒マット	段+黒 マット	通函+黒 マット	黒マット/ 椅子	黒マット/ 椅子	黒マット/ 椅子	仮台+黒 マット
観客入退場	(全方位)	全方位	全方位	全方位	全方位	全方位	全方位	全方位/西	西+全方位	東西南	全方位	全方位	全方位	全方位

円形演技エリアの形成が9例(69%)を占める。円形以外の舞台でも、演技エリア全体を見れば、円形劇場の全てを演技エリアに使い、劇団が積極的に仮設劇場・オープンシアターの特性を生かそうとしている。

「ロメオとジュリエット」は観客と演技者が一緒に演劇を作り出す特異な例で、客席と舞台が混在している。他は全て客席の周りが、副演技エリアとしてドーナツ型の演技空間に変化する。半透明のカーテンやアーチューブの特性を生かし、また平土間円形劇場の自由な使い方を示した。

客席位置は外周(7例)他、中央部・南北・分散と演劇に合わせて変化する。客席形状もドーナツ状から、横列・四方・仮設段床・扇形と様々である。客席材料も標準の黒マットを基準に、尻座布団や仮台による高さの調整等、工夫している。観客の入退場は、演出上一定の方位に制限されることが多いが、自由にどこからでも出入りできるこの仮設劇場の特性が生かされている。

## まとめ

オープンステージの利用が、公共ホールではほとんどないのに対し、〈仮設劇場〉WAでは見事に4つの劇場形式(包囲・対向・扇形・道行)を使った。出入りが自由で、周りに余裕のある、フレキ

シブル空間を確保した〈仮設劇場〉WAは、演劇をする側にとり、挑戦したい空間であり、固定的対向型・プロセニウムステージに止まらない空間に、演劇が息づいていることを筆者は実感した。

## あとがき

劇場設計で利用実態を知ることは必要不可欠である。プロセニウム劇場に止まらず、様々な演劇形式に対応するオープンシアターは設計者にとり魅力的であるが、その利用は机上の空論になりがちである。調査の積み重ねにより、実態に合った計画が進んでくれることを願っている。

最後に、多大な御協力を頂いた大阪現代演劇祭事務局はじめ、関係各位に心から謝意を表します。

## 文献

- 1) 森幹雄：公共多目的ホールに於ける可変機構の有効性に関する研究 日本建築学会計画系論文集 第610号、55-62、2006年12月
- 2) 五十嵐淳：大阪現代演劇祭仮設劇場：新建築 p74～79 2005年6月
- 3) 大阪都市協会：「-劇場へ」大阪現代演劇祭〈仮設劇場〉WA全記録 大阪都市協会 2006
- 4) 清水裕之：劇場の構図 鹿島出版会 p19～27 1985